

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」評価要領

平成 20 年 8 月 19 日
独立行政法人日本学術振興会
「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」事業委員会決定

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」（以下「本事業」という。）の中間・最終評価は、この要領により行うものとする。

I. 評価の目的

1. 中間評価の目的

各プロジェクト研究の進捗状況等を把握し、適切な助言を行うとともに、以後の研究の継続の可否（計画の見直しを含む。）の判断に資することを目的とする。

2. 最終評価の目的

各プロジェクト研究の研究目的の達成度等を評価するとともに、その評価結果を各プロジェクト研究の研究代表者等に示すことにより、本事業の実施期間終了後の当該研究のさらなる発展に資することを目的とする。

II. 評価の時期

プロジェクト研究	中間評価の時期	最終評価の時期
実施期間 1 年間のプロジェクト研究	行わない	1 年度目
実施期間 2 年間のプロジェクト研究	行わない	2 年度目
実施期間 3 年間のプロジェクト研究	行わない	3 年度目
実施期間 4 年間のプロジェクト研究	2 年度目	4 年度目
実施期間 5 年間のプロジェクト研究	3 年度目	5 年度目

III. 評価委員会

1. 評価の実施主体

評価は、「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」事業委員会（以下「事業委員会」という。）に置く評価委員会において実施する。

2. 評価チーム

(1) 評価委員会は、プロジェクト研究ごとに評価チームを置き、評価チームは次に掲げる者から組織する。

- ・ 評価委員会主査
- ・ 評価委員会副主査
- ・ 評価委員のうち、以下に該当する者（3 名程度）
 - NGO 等関係者、企業関係者等の社会的・政策的ニーズの関係者
 - 評価対象プロジェクト研究の対象とする地域の専門家等
 - 評価対象プロジェクト研究の対象とする研究分野の専門家等

(2) 評価チームは、評価対象プロジェクト研究に対する書面評価及び面接・合議評価を実施する。

(3) 評価委員会主査は、評価チームの決定を以て、評価委員会の評価結果案とすることができる。

3. 研究コーディネーターの参加

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」研究コーディネーター（以下「研究コーディネーター」という。）は、担当するプロジェクト研究の進捗状況等について意見等を述べるため、評価委員会に出席することができる。この場合において、研究コーディネーターは、評価者、被評価者のいずれにも属さないものとする。

IV. 評価の実施

1. 中間評価の実施

(1) 中間評価の評価方法

① 書面評価

評価チームは、各プロジェクト研究より提出される研究進捗状況報告書（別紙1）及び研究提案書により、評価対象プロジェクト研究の個別書面評価を行う。

② 面接・合議評価

評価チームは、評価対象プロジェクト研究の研究代表者等から、研究進捗状況報告書に基づく説明を受けて、個々の書面評価結果を踏まえた面接評価を行い、合議により当該プロジェクト研究の評価結果案を作成する。

なお、面接評価の実施に当たっては、別に定める「面接評価実施要領」により行う。

③ 評価結果案の報告及び決定

1) 評価委員会主査は、各プロジェクト研究の評価結果案をとりまとめ、事業委員会に報告する。

2) 事業委員会は、評価結果案を決定し、独立行政法人日本学術振興会理事長（以下「理事長」という。）に報告する。

(2) 中間評価の評価項目

① 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されているか。

② 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されているか（実績の評価）。

③ 社会的・政策的ニーズに応える研究成果の創出が期待できるか（将来性の評価）。

④ 学術的に高い水準が確保されているか。

(3) 中間評価の評価基準

評 価	評 価 基 準
A	研究を継続する。
B	研究計画を一部見直しの上、研究を継続する。
C	研究計画の大幅な見直しをした上で、研究を継続する。
D	研究を終了する。

2. 最終評価の実施

(1) 最終評価の評価方法

① 書面評価

評価チームは、各プロジェクト研究より提出される研究終了報告書（別紙2）及び研究提案書により、評価対象プロジェクト研究の個別書面評価を行う。

② 面接・合議評価

評価チームは、評価対象プロジェクト研究の研究代表者等から、研究終了報告書に基づく説明を受けて、個々の書面評価結果を踏まえた面接評価を行い、合議により当該プロジェクト研究の評価結果案を作成する。

なお、面接評価の実施に当たっては、別に定める「面接評価実施要領」により行う。

③ 評価結果案の報告及び決定

1) 評価委員会主査は、各プロジェクト研究の評価結果案をとりまとめ、事業委員会に報告する。

2) 事業委員会は、評価結果案を決定し、理事長に報告する。

(2) 最終評価の評価項目

① 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されたか。

② 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されたか（研究の過程）。

③ 社会的・政策的にニーズに応える研究成果が創出されたか。

④ 学術的に高い水準が確保されているか。

(3) 最終評価の評価基準

評 価	評 価 基 準
S	所期の研究計画以上の取組が行われた。
A	所期の研究計画と同等の取組が行われた。
B	概ね所期の研究計画と同等の取組が行われたが、一部で当初計画以下の取組もみられた。
C	所期の研究計画以下の取組であったが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられた。
D	総じて所期の研究計画以下の取組であった。

V. その他

1. 開示・公開等

- (1) 評価に係る審議は非公開とする。
- (2) 各プロジェクト研究の中間・最終評価結果は、評価終了後、独立行政法人日本学術振興会ホームページへの掲載等により公開する。
- (3) 評価委員の氏名は、評価終了後に公開する。

2. 利害関係者の排除

評価チームを組織する際は、次に掲げる者は除くものとする。

- (1) 評価対象プロジェクト研究に参加する者
- (2) 評価対象プロジェクト研究の責任機関に在職（就任予定を含む。）する、又は過去3年以内に在職した者
- (3) 評価対象プロジェクト研究の研究代表者に対して、親子、兄弟姉妹若しくはそれと同等の親密な親族関係を持つと判断される者
- (4) その他、中立・公正に評価を行うことが困難であると判断される者

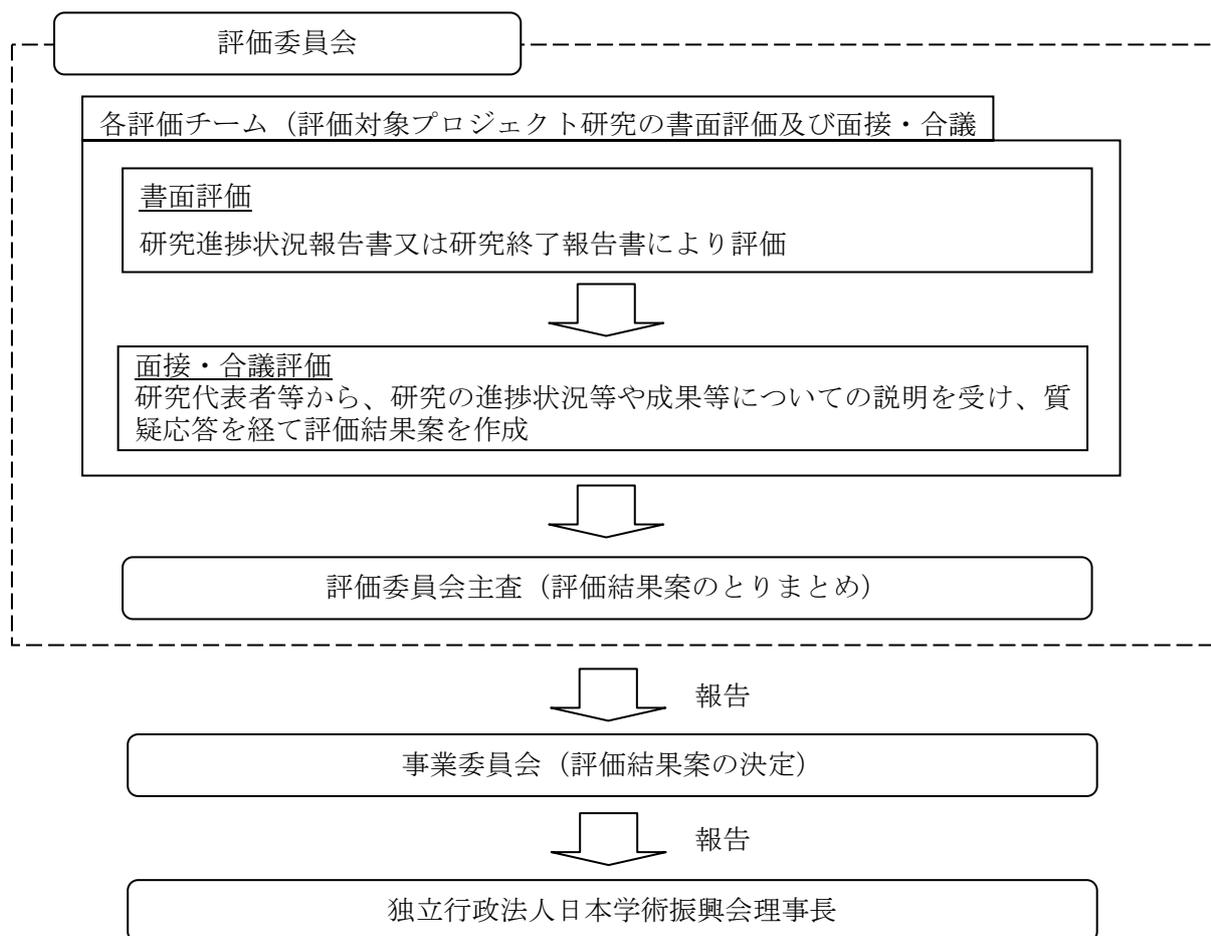
3. 秘密保持

- (1) 評価委員として評価の過程で知り得た個人情報及び評価内容に係る情報については、外部に漏らしてはならない。
- (2) 評価委員として取得した情報（各種資料を含む。）は、他の情報と区別し、善良な管理者の注意義務をもって管理に当たるものとする。

4. その他

この要領に定めるもののほか、評価の実施に関し必要な事項は別に定める。

VI. 評価手順



平成20年度「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」
研究進捗状況報告書〔中間評価用〕（様式）

研究領域（該当するものに○を付けてください。）	
<input type="checkbox"/> 研究領域1 日本と諸地域との関係性の解明—協働に向けて— <input type="checkbox"/> 研究領域2 地域のアイデンティティーの解明—相互理解を深めるために—	
研究課題名	
責任機関名	
研究代表者（所属部署・役職・氏名）	
研究期間	平成〇〇年度 ～ 平成〇〇年度
主に研究対象とする国名	() () () ()

※◀ ▶内は頁数の目安

1. 想定する政策的・社会的ニーズ◀ 1頁程度 ▶

基本的に、研究提案書の「想定される政策的・社会的ニーズ」欄の記載内容から変更はないと考えられますが、研究の進捗の過程で変更や修正があれば、それを反映させて記述してください。

2 研究の目的・意義<< 1 頁程度 >>

基本的に、研究提案書の「研究の目的・意義」欄の記載内容から変更はないと考えられますが、研究の進捗の過程で変更や修正があれば、それを反映させて記述してください。

【政策的・社会的ニーズを踏まえた研究目的】

【学術上の研究目的】

3. 研究（内容、方法及び研究成果）の概要（中間評価時までの進捗状況）《2～3頁程度》

研究提案書の「研究の概要及び手法」欄の記載内容と対応させて、研究の進捗状況について説明してください。

4. 研究実施体制<< 1 頁程度 >>

平成20年度の研究実施体制を記載してください。(本報告書提出時点のもの)

5. 研究成果及びそれが社会にもたらす効果《1～2頁程度》

研究提案書の「研究成果およびそれが社会にもたらす効果」欄の記載内容と対応させて、中間評価時点で、当該欄の記載事項がどれほどの実現可能性を持つと考えているか、説明してください。

6. 成果の公開等<< 1～2 頁程度 >>

- ・事業開始からこれまでの間に当事業において得られた成果のうち、すでに公開されたものを記入してください。
- ・下記のうち、主な論文等の抜刷（A4判）を1～2編添付してください。

(1) 論文

《論文タイトル》《発表者》《発表誌名》《巻》《号》《ページ》及び《掲載年月日》を記入してください。

(2) 著作物

《書名》《著者名》《出版社》《発行年》及び《総ページ数》を記入してください。

(3) 講演（学会発表を含む）

《講演タイトル》《発表者名》《講演会名》《発表年月日》及び《参加者数》（うち研究者xx名、一般xx名）を記入してください。※参加者数については分かる範囲で記入してください。

(4) その他（本事業で主催したシンポジウム等）

《シンポジウム等名称》《会場名》《開催年月日》及び《参加者数》（うち研究者xx名、一般xx名）を記入してください。※参加者数については分かる範囲で記入してください。

7. 今後の研究の展望（4年目、5年目の研究の方向性）《1頁程度》

今後の研究の進め方について、アピールしたい事項があれば記載してください。

平成20年度「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」
研究終了報告書〔最終評価用〕（様式）

研究コンセプト：ーグローバル・イシューに対応した新たな地域研究の可能性の探索ー	
研究対象とするグローバル・イシューの類型（該当するものに○を付けてください。）	
<input type="checkbox"/> 開発等に伴う環境問題 <input type="checkbox"/> 人的移動に伴う社会問題	
研究課題名	
責任機関名	
研究代表者（所属部署・役職・氏名）	
研究期間	平成〇〇年度 ～ 平成〇〇年度
主に研究対象とする国名	<input type="checkbox"/> () () <input type="checkbox"/> ()

※◀ ▶内は頁数の目安

<p>1. 想定する政策的・社会的ニーズ◀ 1頁程度▶</p> <p>基本的に、研究提案書の「想定される政策的・社会的ニーズ」欄の記載内容から変更はないと考えられますが、研究の進捗の過程で変更や修正があれば、それを反映させて記述してください。</p> <p>①政策的・社会的ニーズを有する者</p> <p>②政策的・社会的ニーズの内容</p>

2. グローバル・イシューについて《1頁程度》

基本的に、研究提案書の「グローバル・イシューについて」欄の記載内容から変更はないと考えられますが、研究の進捗の過程で変更や修正があれば、それを反映させて記述してください。

① 研究対象とするグローバル・イシュー

② 問題意識とグローバル・イシューの内容

1) 日本、日本人において、何故このグローバル・イシューが重要か

2) 学術上の観点から、何故このグローバル・イシューが重要か

3) グローバル・イシューの内容

3 研究の目的・意義<< 1 頁程度 >>

基本的に、研究提案書の「研究の目的・意義」欄の記載内容から変更はないと考えられますが、研究の進捗の過程で変更や修正があれば、それを反映させて記述してください。

【政策的・社会的ニーズを踏まえた研究目的】

【学術上の研究目的】

4. 研究（内容、方法及び研究成果）の概要（最終評価時までの達成状況）《2～3頁程度》

研究提案書の「研究の内容及び手法」欄の記載内容と対応させて、研究の達成状況について説明してください。

①内容（何が、どこまで明らかにされたか）

②手法、アプローチ（どのような研究手法を用いたのか）

5. 研究実施体制<< 1 頁程度 >>

研究最終年度の研究実施体制を記載してください。(本報告書提出時点のもの)

6. 研究成果及びそれが社会にもたらす効果《1～2頁程度》

研究提案書の「研究成果およびそれが社会にもたらす効果」欄の記載内容と対応させて、当該欄の記載事項がどれほど達成されたかについて説明してください。

①政策的・社会的ニーズに具体的に応えた研究成果は何か

②研究成果を通じて社会にどのような効果をもたらすと考えているか

③その他、副次的な効果はあるか（あると考えている場合のみ記入）

7. 成果の公開等<< 1～2 頁程度 >>

- ・事業開始からこれまでの間に当事業において得られた成果のうち、すでに公開されたものを記入してください。
- ・下記のうち、主な論文等の抜刷（A4判）を1～2編添付してください。

(1) 論文

《論文タイトル》《発表者》《発表誌名》《巻》《号》《ページ》及び《掲載年月日》を記入してください。

(2) 著作物

《書名》《著者名》《出版社》《発行年》及び《総ページ数》を記入してください。

(3) 講演（学会発表を含む）

《講演タイトル》《発表者名》《講演会名》《発表年月日》及び《参加者数》（うち研究者xx名、一般xx名）を記入してください。※参加者数については分かる範囲で記入してください。

(4) その他（本事業で主催したシンポジウム等）

《シンポジウム等名称》《会場名》《開催年月日》及び《参加者数》（うち研究者xx名、一般xx名）を記入してください。※参加者数については分かる範囲で記入してください。

8. 「新たな地域研究」の展開への貢献≪1～2頁程度≫

研究提案書の「本研究課題の遂行による『新たな地域研究の可能性』」欄に記載した内容と対応させて、研究の実施により、地域研究の新たな展開にどのように資することができたのかについて説明してください。